

令和4年度 奈良県立御所実業高等学校 学校評価総括表

【高等学校用】

年度	令和4年度（中期計画1年目）
本校の使命（スクール・ミッション）	「ものづくりは人づくり・夢づくり」を基本テーマとし、「ものづくり」を通して喜びや達成感を味わい、総合的な人間力を土台にし、さまざまな分野で活躍できる社会人・職業人の育成
年度重点目標	1 学力の向上に向けて、授業の充実と主体的な学習習慣の育成を図る 2 規律ある生活習慣を育成する 3 健全な心身の発達に努め、勤労を尊重する精神を高揚する 4 地域との連携を図り、文化・防災の拠点となる学校を目指す

1 スクール・ポリシーの内容

教育方針 (スクール・ポリシー)	入学者の受け入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)	本校では、以下のような生徒を積極的に受け入れます。 1 本校の使命や教育方針を理解する生徒 2 基礎的な学力が身につけており、学習に対して前向きな生徒 3 自ら考え、自ら行動できる生徒 4 人間尊重の精神を持ち、社会貢献の意識が高い生徒 5 ものづくりに興味・関心を抱き、専門分野の知識や技能、技術の修得に意欲的な生徒
	教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)	本校では「ものづくり」を通して、確かな学力・豊かな人間性・健やかな心身の育成と、変化する社会に積極的に対応し得る能力・意欲・創造性を養うことを教育方針とし、その実現のために以下の教育を行います。 1 生徒一人一人の興味・関心に応じた科目選択ができるカリキュラムを編成します。 2 「資格取得」を目標に、生徒一人一人の学習意欲を喚起し、個に応じた指導により、わかる授業を展開します。 3 実習を通して、職業人として必要な知識や技能を身につけるとともに、人間力を養い、生きる力を育成します。 4 課題研究により、自ら課題を発見し解決する能力と創造力を養い、プレゼンテーション力を育成します。 5 ルールを守ることと規範意識を構築し、社会人としての資質を習得する態度を養います。 6 部活動、特別活動、自主活動を推進し、健やかな心身と人間力を育みます。
	育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)	本校では、卒業までに、以下の資質・能力の育成を目指します。 1 ものづくりを通して得た知識や技能、コミュニケーション力を実社会で活用することができる。 2 他者と協力し、協調性をもって物事に取り組む姿勢が身についている。 3 ものづくりに対し、創造力が豊かで、積極的に貢献し学び続けようとする態度ができています。

2 奈良県教育振興基本計画（「奈良の学び推進プラン」）が示す各テーマごとの学校教育目標

テーマ	学校の教育活動に関する目標（A）	計画期間における具体的目標（B）	令和4年度末の目標値等（C）	令和4年度末の状況（D）	自己評価（E）	学校関係者評価（F）	改善方策（G）	
1. こころと身体を子どもの成長に合わせてはくむ	望ましい運動習慣の確立	体育の授業以外での運動を習慣づける	1日20分以上週4日行う割合 40%以上	4日以上30分が40% 何もしていないが28%	A	B	コロナ禍で実施できなかった体育関連行事などを実施・充実させ、運動への興味・関心を高めさせることで運動習慣の定着を図る。	
	望ましい食習慣の確立	食育教育をとおして朝食摂取率を上げる	朝食摂取率 65%以上	毎日食べているが55% 殆ど食べないが25%	B		B	各教科及び部活動等、あらゆる機会を利用して横断的に食育を推進し、食習慣の改善を促す。
	望ましい読書習慣の確立	朝読などを通して読書習慣を促す	図書室の年間入室者数2,000人、年間貸出冊数350冊	開館日数180日で、図書室の入室者数1,328人、貸出冊数249冊	B		B	「朝の読書」を利用し、読書習慣の定着を図る。「図書室便り」を作成し、読書の楽しさや大切さを学校全体に発信するとともに、生徒が自らの進路を考えるうえで参考になる職業や学問に関する書籍を充実させる。
2. 学ぶ力、考える力、探究する力をはくむ	基礎学力の定着	わかりやすい授業を展開する	生徒アンケートのわかりやすい授業指数 80以上	よくわかるが50% だいたいわかるが29%	B	B	評価方法及びICT活用に関わる研修会を実施し、教員のスキルの向上を図る。	
	オンライン教育の推進	ICTを活用した教育を充実させる	授業のためのICT活用能力を高める教員研修 年間1回以上	電子黒板の使用に関する教員研修を1回実施	A		A	資格検定対策講座の周知・充実を図るとともに、チャレンジ回数を増やし底上げを図る。
	資格検定対策講座への参加の推進	資格検定対策講座の充実を図る	資格検定合格率 45%以上	農業、工業に関する検定合格率46% 漢字検定英語検定合格率69%	A		A	
3. 働く意欲と働く力をはくむ	インターンシップの充実	インターンシップ参加人数の向上を目指す	インターンシップ参加率 30%以上	デュアルシステム123人、インターンシップ58人 計181人 = 32%	A	A	維持・継続するとともに、参加生徒が進路について意欲的に取り組める環境づくりに取り組む。	
	産業界との連携の推進	企業との連携事業件数を増やす	企業との連携事業件数 10件以上	F科1、M科3、C科3、E科3 進路6 合計16件	A		A	企業との連携事業件数を増加させるとともに、内容をより深いものとする。
	キャリア教育の推進	キャリアパスポートを活用したキャリアプランニング能力向上HRを展開する	キャリアパスポート等を活用したキャリアプランニング能力向上HRの各学年の年間HR時数 10時間以上	3年16時間、2年16時間 1年13時間	A		A	HRの時間だけでなく、社会人として必要な挨拶などの基本的なことを日常的に指導する。
4. 地域と協働して活躍する人を育てる	コミュニティ・スクールの運営	コミュニティ・スクールを充実させる	コミュニティ・スクール協議会の年1回以上の開催	コロナウイルス感染症予防につき、書面決議を2回実施	A	B	対面での学校運営協議会を開催し、委員と学校の現状と課題を共有する。生徒会や各学科を中心に年5回以上の地域での伝統行事等への参加を目標とするとともに、参加生徒の達成感を高め継続的な取組にしていく。	
	地域の活性化	地域の伝統行事への参加	地域の伝統行事への参加人数の増加	奈良マラソン、飛鳥マラソンでボランティア活動に参加	B		B	美化委員以外の生徒の参加を促す。
	通学路清掃をとおして、地域の美化に貢献する	HRや通学路清掃をとおして地域の美化に貢献する態度を養う	美化委員会を中心に参加を募り、美化委員の参加率 70%以上	美化委員の参加率69%	B		B	
5. 地域で個性が輝く環境と仕組みをつくる	人権教育の充実	HRや講演会、フィールドワークにおける人権教育を充実させる	人権教育HR・講演会の各学年の回数 年間3回以上	人権教育HR1年4回、2年3回、3年5回、人権講演会1回を実施	A	B	地域課題や社会論争をもとにした探究活動につながる講演会などを充実させる。	
	学校いじめ防止方針に基づく取組の推進	教員のいじめ防止研修の実施	教員のいじめ防止研修の年度2回以上の開催	2学期に1回開催	B		B	あらゆる機会を通じて、いじめの未然防止・早期発見・早期対応・再発防止を図る。支援や配慮を必要とする生徒対応のために支援教育推進委員会を設置するとともに、SCを有効活用し、生徒の悩み解消に対応する。
	個別の支援教育や指導計画の実効性ある活用	対象生徒の状況を確認	学期ごとに対象となる生徒の状況を組織的に確認	定期的、また組織的までとはいえないが概ね把握できている。	B		B	

A:目標値以上 B:目標値の75%以上 C:目標値の50%以上 D:目標値の50%未満

3 評価結果の分析、今後の改善方策等

保護者学校評価アンケートの結果、「本校に子どもが入学して良かったと思う」の項目においては、「そう思う」が72.6%、「大体そう思う」が24.2%、「あまりそう思わない」が2.5%、「思わない」が0.7%と、そう思うと大体そう思うで96.8%と満足度が高いと考える。年度末の状況から、概ね目標値に近い数値となっているが、食習慣や学習習慣など、基本的な生活習慣や生活態度について指導を強化していく必要がある。そのためにも、保護者と協力しながら、連携を密にし、教育活動の充実を図りたい。
--